

秋からの稲づくり

□ 「越前しきぶ姫」の品質・食味向上は土づくりから □

●土づくり

平成 29 年度の米づくりは、刈取り後から始まっています。まずは、土づくりから、近年の異常気象条件下では、① 土壌のけい酸分の減少 ② 腐植含有量の欠乏 ③ PHの低下 など、地力の低下により生育後半に稲体が活力を落とし、米の品質・食味低下に繋がっています。土づくり資材を施用し、土壌中の腐植を高めることは化学肥料の低減にもつながることから、コスト削減の有効的な対策といえます。土壌に不足している養分の補給を目的としたけい酸資材の施用、有機物の投入、作土深の確保などは決して省略せず、確実な土づくりを行きましょう。



●けい酸資材の施用

けい酸は、根の酸化力を増進し、病害虫や土壌還元に伴う各種阻害要因に対して抵抗性を高める効果があります。水稻は好けい酸植物といわれており、毎年継続して、けい酸資材を施用することが望ましく、特に砂質土水田や秋落ち水田等でその効果が高くなります。

管内の土壌診断を行ってみると、稲が生育するのに必要なけい酸の土壌含有量が15.0mg/100gであるのに対し、ほとんどの地点でこれを下回っており、この傾向は、ほぼ全域に共通しています。又、稲が生育する際、土壌の最適PHは弱酸性(PH6.0)が良いとされていますが、近年強酸性～微酸性(PH5.0～6.0)の土壌が多くなっています。



●腐食を高めるケイフン散布を (地力の乏しい地域では、けい酸資材の施用にプラスして)

稲作では、本田で根傷みしない状態を秋からつくりあげるのがポイントです。根傷みの原因は、土中に漉き込まれた未分解のワラにあります。水田に水を張っても根の活力が低下しないように、秋のうちにワラを分解しておく必要があります。

10a 分のワラの分解に必要な窒素量 3kg～4kg

醗酵ケイフン 10a/100kg～150kg

ワラの残る水田にまいて、15cmくらいの深さで耕うんしてください。

地温が18℃以上必要なため、10月中の散布を。

緊急情報 ◆ 特別栽培米生産予定農家の皆様へ ◆

来年、特別栽培米(化学肥料・化学農薬を減らした栽培など)を予定されている場合、前作物収獲後から使用した肥料・農薬をカウントします。前作物(今年)が水稲や大豆であった場合、既に栽培期間中としてみなされますので、圃場への除草剤散布は控えるようにしましょう。土づくり資材の選択については、化学合成窒素を含まない、ケイカルやスーパーケイサン、ようりんを施用するようにしてください。

平成 29 年産米の栽培は既に始まっています

◆ 土づくり資材の無償散布について ◆

<p>ケイカル(砂) 500kg/10a</p>	<p>ケイカル資材代 13,500円(税込) 【税別12,500円】</p> <p>購入経費助成 ▲3,000円(税込) 【税別 2,778円】</p> <hr/> <p>実質農家負担 10,500円(税込) 【税別 9,722円】</p> <p style="text-align: center;">自分で散布した場合、別途散布費用として 2,000円(税込)【税別1,852円】支援します。</p>
<p>しきぶホワイト(粒状) 100kg/10a ホワイトカリウ 100kg/10a</p>	<p>しきぶホワイト(粒状)・ホワイトカリウ資材代 9,500円(税込) 【税別8,797円】</p> <p>購入経費助成 ▲1,000円(税込) 【税別 926円】</p> <hr/> <p>実質農家負担 8,500円(税込) 【税別7,871円】</p> <p style="text-align: center;">自分で散布した場合、別途散布費用として 1,000円(税込)【税別926円】支援します。</p>

●STOP稲わら焼却 稲わらは放置せず、全量すき込みましょう！

★ 稲わらすき込み効果とポイント ★

- 土を柔らかくして、土が養分を抱える力が向上する。
- 地力の維持増進、土壌の改善・品質向上に役立つ。
- 稲わらの分解を促進するために、収穫が終わったら速やかに(気温が高いうちに)耕起を行いましょ。
- 稲わらには窒素分やけい酸分が含まれますが、焼却すると稲体に利用されにくくなるので、焼かずに全量すき込みましょう。



●プラウ耕による作土深の確保を！！

近年は、耕深が浅くなったり、有機物や土づくり資材の施用が減少しているうえに、基肥一括肥料の側条施肥田植えが広がっています。これらの要因が重なって、水稻の根群形成が浅くなり、貧弱となっている傾向がみられます。貧弱な根群では、大きな気象変動にも耐えられず、稲体の活力を維持できずに、籾に養分の転流(運搬)が行えなくなってしまう。

おいしい、登熟の良い米づくり、産米の大粒化を目指すためには、収穫直前まで稲体の活力を維持する必要があり、そのため、根を十分に張らせ、健全に保つことが重要です。

★ 深耕による根域の拡大で、下層に伸びる根を増やそう ★

